

福井県における郷土史研究の動向

（平成二十三年）

平成23年は、一乗谷朝倉氏遺跡の特別史跡指定40周年、特別名勝指定20周年、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館開館30周年となる記念の年であった。そこで一乗谷朝倉氏遺跡資料館では「戦国城下町一乗谷を歩く」発掘調査と環境整備のあゆみ」と題した特別展を開催。重要文化財やゆかりの遺宝などの特別公開も行い、記念シンポジウム「戦国城下町一乗谷の魅力を再考する」を開催した。福井の魅力発信事業に取り組んでいる福井県では、福井ブランドの一つとして「幕末福井」をあげ、幕末の福井藩主松平春嶽の関連文献の現代語訳を進めており、『現代語訳 逸事史補』（角鹿尚計訳 福井県観光営業部）を作成した。

次に平成23年に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

一、自治体史・地域史等

美浜町は、平成13年から発行してきた町誌の最終巻となる『わかさ美浜町誌 美浜の歴史 第3巻 美浜をさかのぼる』を刊行。古代から現代までの歴史を網羅、小中学校の副読本として活用できるようにわかりやすい表現でまとめている。また、町誌の『総目次・総索引』、町誌全体の内容をまとめた外国語版（英語、中国語、韓国語の3カ国語）、「美浜文化叢書」の6巻目として『わかさ美浜教育史 1』（竹長吉正著 美浜文化叢書刊行会）を刊行。このほか、美浜町歴史シンポジウムの記録集『ここまで分かった！興道寺廃寺 興道寺廃寺をとりまく地域 風景、人々』（美浜町教育委員会）も出た。南越前町大谷浦の宮川・向山両家の庄屋文書、『宮川・向山家文書目録』（南越前町教育委員会）が完成。大学関係者らでつくる研究チームが約10年をか

けて調査・整理したもので、河野地区の地域史研究への活用が期待される。大野市は、平成22年3月からほぼ1年間にわたって行った「越前大野城築城430年祭」の記念誌『悠久の時を経て…今、城下町に新しい風が吹く』と記録DVDを作成し配布。福井市立郷土歴史博物館は4枚組みの『福井城下図集』を作成。「福井分間之図」（享和3（1803）年 松平文庫蔵）の画像データにデジタル処理をして全体図を再現。他の3枚は現代の地図との重ね図となっている。

各自自治体の地区史としては、福井市明新まちづくり委員会が新田貞貞の人生や地名の由来を紹介した『新田塚の栞』を作成。坂井市丸岡町では、昭和33年発行の『丸岡町めぐり』を丸岡ロータリークラブが加筆修正して再版。同町高椋地区のたかむくのまちづくり協議会は小冊子『コシヒカリの古里から奈良西大寺へ』を作成。『竹田800年物語 「山の道」と国道364号』（坪川貞彦）などが刊行された。勝山市では、野向町まちづくり推進委員会が『高尾の息吹 第3集 町誌編』を刊行。中学生にも親しめるようエピソードやトピックスを多く挿入している。また、『町なか高札・石柱を訪ねて』（勝山地区エコ推進協議会）、『平泉寺から「北袋」そして勝山へ 「慶長国絵図」「比良野郷帳」をてがかりに』（山田雄造）が刊行された。このほか、『旧町名から見た敦賀の歴史 地域史の出発点』（山本晴幸著 日本海地誌調査研究会）、『和泉の自然と歴史』（印牧邦雄）も刊行された。

二、史跡調査報告書

埋蔵文化財関係では、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの調査報告書の他、『小羽山墳墓群の研究 資料編』『同 研究編』（福井市立郷土歴史博物館）、『西繩手下遺跡発掘調査報告書 II』（小浜市教育委員会）、『若狭における弥生時代前期の遺跡 —小浜市丸山河床遺跡の出土資料—』（平成19～22年度科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究成果 伊藤淳史研究代表

京都大学文化財総合研究センター」が刊行。

古代史研究では、『若狭・越古墳時代の研究』（入江文敏著 学生社）、考古学フォーラム記録集『日本海側の弥生墓制』（鯖江市教育委員会）が発行された。

三、人物

福井県立こども歴史文化館は、「これき人物シリーズ」の第2弾として江戸時代の人物を中心にした『ふくいの人々たち 近世』を、鯖江市教育委員会はゆかりの偉人16人を紹介する『さばえ人物ものがたり 下巻』を発行。『戦国を生きた女たち お市の方とその娘たち』（歴史のみえるまちづくり協会）は平成22年度歴史講座講演録。最後の福井藩主松平茂昭の子で農業振興

に貢献した松平康荘の英国留学時の資料をまとめた『写真で見る松平康荘の英国農学修行関係史料』（熊澤恵理子編著 東京農業大学教職・学術情報課程教育学研究室）、『漢詩にみる梅田雲浜』（村上利夫著 友月書房）、『死生天命―佐久間艇長の遺書』（足立倫行著 ウェッジ）、『評伝若泉敬 愛国の密使』（森田吉彦著 文藝春秋）、小浜市の著会社会長が著作りにかけた思いを語る『箸しらず』（浦谷兵剛著 講談社）、セーレン株式会社代表取締役社長の人生のあゆみをオーラルヒストリーの形でまとめた『川田達男オーラル・ヒストリー』（中村尚史ほか著 東京大学社会科学研究所）などが発行された。

四、各分野団体史

学校関係では、越前市の『年輪 大虫小学校創立100周年記念誌』、『礎 武生西小学校創立百周年記念誌』、越前町の『洗心 宮崎小学校百年誌』、『仁愛大学開学10周年記念誌 2001―2011』、『福井県立福井商業高等学校

校野球史 3』（森永忠雄編著 福井県立福井商業高等学校校野球部後援会）が刊行。福井県中学校体育連盟『60周年記念誌』も出た。

公民館関係では、平成22年に発足60周年を迎えた福井県公民館連合会は、50周年以降の歩みをまとめた『福井県公民館連合会10年のあゆみ 平成12年〜平成22年の記録』を刊行。福井市では、福井市公民館連絡協議会が福井市公民館の歴史を網羅した『福井市公民館五十年誌』、河合公民館60年間の活動をまとめた『河合地区誌』のほか、円山公民館、足羽公民館、湊公民館の創立50周年記念誌、社南公民館、社北公民館の創立30周年記念誌が刊行された。

そのほか、福井県社会福祉協議会創設60周年記念誌『ふくいに、いつぱいっぽ。』、鯖江市婦人福祉協議会創立50周年記念誌『輝いて煌めいて未来へ躍動』、福井市順化地区社会福祉協議会『37年のあゆみ』、『新江守中自治会結成40周年記念誌 PROCESS』、福井市シルバー人材センター設立30周年記念誌『銀の輝き』、『社団法人ガールスカウト日本連盟福井県支部結成50周年記念誌 翔けガール』、敦賀法人会『税とともに50年のあゆみ』、福井県建築士事務所協会『創立35周年記念誌』が刊行。福井実践国語の会設立50周年記念誌として会報『福井実践国語 第18号』、日本山岳会福井支部創立20周年記念号として支部報『山想 No.25』が出た。

五、宗教・民俗・文化財

宗教関係では、新聞連載と関連記事を再編集した『親鸞なう―750年の時を超えて』（福井新聞社）が出版。親鸞のほか、仏事の意義や真宗王国である福井の県民意識調査結果など多角的な視点から宗教を考察している。

民俗関係では、小浜市は市政施行60周年記念事業として市内の風景や伝統行事など写真を集めた『小浜のいいとこアルバム』を作成した。小浜市の雲

浜獅子保存会は新しい史実を加筆した『雲浜獅子 第2版』を刊行。若狭のまつりを紹介した『宮川郷 全光寺滝不動尊大祭』、『お盆のお精霊舟』(ともに須川建美)も刊行された。福井市文殊地区の「村の歴史懇話会」は会報『温故叢談 第7号』で地元の言伝えや民話などを地区内の町内ごとにまとめている。また、伝統を映像で伝えようと、ふくい伝統文化活性化事業実行委員会は鯖江のオコナイ、勝山左義長、越前和紙製作を収録したDVDを、丹南ケーブルテレビは漆器や織物、和紙や打ち刃物など4つの伝統産業で歌い継がれてきた仕事唄を作業風景とともに収録したDVDを制作した。このほか、『瑞源寺本堂・書院修理工事報告書』(国京克己建築設計工房編 高照山瑞源寺)が発行された。

六、自然・工業・産業

越前町立福井総合植物園プラントピアは県内で見られる約800種の樹木を紹介した図鑑『福井の樹木 福井県樹木誌』を発行。『福井の探鳥地100』(日本野鳥の会福井県)は県内で野鳥に出会えるスポットを初心者にもわかりやすく紹介。『1948 福井地震報告書』(中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会)は、未だ解明しきれていない福井地震をさまざまな角度から見直している。『聞き書き中池見今昔 第1集』(ナチュラリスト 敦賀緑と水の会)は湿地が水田だった頃の様子をまとめている。『鳴鹿大堰千年誌』(北山賢一)は九頭竜川に架かる鳴鹿大堰の古代から現代までの歴史をまとめた力作。日野川用土地利用改良区は創立20周年記念誌として日野川用水の事業の計画から完成までの経緯をまとめた『ありがたい水の恵み日野川用水』を、福井市企業局は明治45年に始まったガス事業の歴史と資料をまとめた『福井市ガス事業100周年記念誌』を発行した。

若狭路文化研究会は『滋賀県物産誌 三方郡』(若狭路文化叢書 第8

集)を復刻、『新保鉱泉繁盛記』(柴田亮俊)、『知つとるけ?小浜線ものがたり』(JR小浜線鉄道遺産を守る会)などの小冊子が作成された。改訂版として『若狭のおさかな(福井県立大学県民双書Ⅴ)』(青海忠久編著 晃洋書房)、『ふくいの自然を楽しむ』(福井県自然観察指導員の会編 楓工房)、『福井みちづくりの歴史』(本多義明他編著 地域環境研究所)などが出た。

七、芸術・文学

芸術では、福井県立美術館が福井出身の日本画家島田墨仙展を開催、嶺南の美術作家で結成された若狭湾美術集団による総合美術展の記念誌『若狭湾美術展20年のあゆみ』が刊行された。

文学では、平成22年に発足した橘曙覧研究会が研究誌「橘曙覧研究」の創刊号を発行。また、江戸時代に三国で活躍した女性俳人哥川の生涯を追った『遊女・豊田屋歌川』(久保悌二郎著 無明舎出版)が出版された。

八、歴史研究施設の動向

県内の各施設の特別展などを紹介する。福井県立歴史博物館は「鉄道博覧会 日本と福井の鉄道のあゆみ」、福井県立若狭歴史民俗資料館は「縄文人の業とこころ―自然とともにある暮らし―」、福井市立郷土歴史博物館は「鑿たがねの魔術く金工の名門・後藤家と刀装の美く」、御三卿 一橋徳川家と田安徳川家、特別陳列「福井藩札と江戸時代の貨幣」、みくに龍翔館は「天下人の時代と坂井 戦国武将の息吹と足跡」を開催した。敦賀市立博物館は、平成24年からの本格的な建物修復事業の準備企画として所蔵名品の特別展や関連イベントを開催した。

以上の紹介で紙面の都合上割愛したものや、もれた資料などについてはお許しいただきたい。